

令和3年度第1回広島県県営林管理経営評価委員会における委員の質問・意見（概要）

- 1 日 時 令和3年8月27日（金） 14時00分～16時30分
- 2 場 所 （WEB会議による開催）
- 3 議 案 第1号議案：令和2年度県営林年度実施計画の達成状況について
第1号議案について審議の結果、令和2年度県営林年度実施計画の達成状況については、条件付きで、諮問のとおり承認された。

4 委員からの主な質問・意見 （○質問 ●回答 ◎意見）

第1号議案：令和2年度県営林年度実施計画の達成状況について

- 資料1の「実施状況の成果目標」の表記が、これまでやってなかった様に読めるので、継続して段々実っていくような表記にされてはどうか。
- ◎ 第1号議案については、指摘のあった文言の調整を加えることを条件として、今回の議論の内容を踏まえ、委員長の判断によって条件付きで承認することとする。
- 令和2年度立木販売の状況が、立木材積当たりの単価が昨年度より下がっている。今年は材価が上がっているのに、低迷した理由は何か、販売価格に季節性があるのではないか。
- 昨年度は、春先に木材価格が下がった影響で、応札者が少なく、明らかに買い控えの状況が見受けられた。最も立木販売単価に影響するのは、入札の際に競争が働くことが大きいと思われる。
- 生産性が高い事業体のノウハウを他の事業体に伝えることで全体的な生産性が上がる可能性があるのか。
- 現場では、今までやってきたやり方が浸透しているため、変えることは難しいと思われるが、生産性を上げる取組を継続的に行っていきたい。
- ◎ 販売管理費の削減効果が全体の利益の確保につながっている点が非常に改革・進展している印象を受けた。
- 当初の年度計画に比べて余裕をもって先行調査をすることは有効なのか。先行調査の計画面積が適正な規模なのか。
- 毎年500haほど先行調査を計画しているが、調査を行っても、実際の施業にまで至らない事例が増えている。このため、施業地の確保の面で課題が出てきている状況である。
- ◎ 昨今の生産性の高い事業体は、工程ごとに必要なスタッフを集中的に投入するスタイルが浸透してきている。そのため、チームが効率的に動ける広い事業地の確保が必要になってくる。事業地の確保には、そういった視点も必要と思われる。

- バイオマス材の需要先全般について今後の展望や現状，増減といった動態について補足してほしい。
- チップの需要については，バイオマス発電向けの需要が増加している状況であり，バイオマス発電向けの販売については今しばらく続くのではないかと考えている。